

コンゴ(民)月例報告
政治関連
2017年5月

主な出来事

●1日、ナンガー独立国家選挙委員会(CENI)委員長は、治安問題が継続している中央カサイ州とカサイ州における選挙人登録作業を、無期限に延期したと伝えた。

●9日、カビラ大統領は、チバラ内閣の閣僚名簿に関する大統領令を出した。同日、国営テレビ・ラジオ局(RTNC)ニュースで読み上げられた閣僚名簿では、3名の副首相(シェ・オキトゥンドゥ外務・地域統合相、ラマザニ・シャダリ内務・治安相、マキラ運輸・交通相)の留任が確認された。

●9日、UDPS はカブンド幹事長名のコミュニケで、12日に予定されていた故エチエンヌ・チセケディ UDPS 党首の遺体の帰国を延期すると発表した。

●16日、通常国会において、チバラ内閣の信任式が執り行われ、同首相が施政方針演説をおこなった。

●17日早朝、キンシャサ市のマカラ中央刑務所が Bundu Dia Kongo とみられる集団によって襲撃され、同集団の精神的指導者であるムアンダ・ンセミと約50名の服役者が脱獄した。コンゴ(民)国家警察は夜になり、ンセミに加え、幾人かの危険な服役者らが脱走したと伝えた。一部報道によると、4500名以上の服役者が脱走した模様。

●20日、ニューヨーク・タイムズは、クレマン・カンク前開発協力大臣が、カサイ地域の暴力に関与している疑いがある旨報じた。カサイ州で殺害された国連専門家の Zaida Catalan 氏のパソコンに、カンク元開発協力大臣がカサイ州での暴力行為を教唆したとする電話記録が残っていたもの。

●26日、憲法裁判所は、4月18日にオー・カタンガ州議会が行ったカゼンベ知事の不信任決議に不備があったとして、復権の決定を行った。

●28日、CENI は、キンシャサ特別州における選挙人登録カード更新作業を開始した。同日から開始するのは、キンシャサ市の4つのコミュニティ(バルンプ、ゴンベ、キンシャサ、リングワラ)で、24の登録センターが設置された。

●30日、カビラ大統領は、昨年9月に中央カサイ州での暴力的状況が始まって以来初めて同州を訪れ、同日、先にカナンガ市入りしていたラマザニ・シャダリ副首相兼内務・治安大臣及びアタマ国防大臣らとともに、州の防衛・治安当局者らと会合を行った。

●昨年12月、コンゴ(民)政府は米におけるロビイングのため、イスラエルのセキュリティと最新テクノロジーに関する専門企業「MER Security and Communication Systems 社」と契約を結んだことが判明した。

1. 内政

(1)CENCO によるカトゥンビ前カタンガ州知事の無実を訴える報告書

・3日、AFP は、3月29日にコンゴ・カトリック司教会議(CENCO)がカビラ大統領に提出した秘密報告書のコピーを入手したと報じた。同報告書は、不動産横領問題でカトゥンビ氏に3年の懲役判決が下された件について、同氏に有罪判決を宣告するための「まやかし(mascarade)」であるとし、カトゥンビ氏に対する逮捕の決定を即刻取り下げるよう求めている。

・メンデ政府報道官はAFPの問いに対し、司祭らは、このような嘆願書を大統領ではなく司法に提出すべきであると回答した。

(2) コンゴ(民)政府が米におけるロビイング契約をイスラエル企業と締結

・昨年12月、コンゴ(民)政府は米におけるロビイングのため、イスラエルのセキュリティと最新テクノロジーに関する専門企業「MER Security and Communication Systems 社」と契約を結んだことが、最近、米司法省の公式文書に掲載された。契約期間は2016年12月8日から2017年12月31日までで、契約金額は5.575百万ドル、このうち4.5百万ドルが既に支払われた(4日付RFI)。

(3) オー＝ロマミ州知事の罷免

・5日、ボンド・オー＝ロマミ州議会議長は AFP に対し、セレスタン・ムブユ州知事(Celestin MBUYU)の不信任決議が、18対3で可決されたと伝えた。罷免理由は、州運営上の問題と、慣習的問題への関与。

(4) UDPS 党本部付近における騒ぎ

・9日早朝、キンシャサ市リメテ地区にある UDPS 党本部付近で、警察のトラック1台とテントが燃やされた。これを受け、同党本部付近には、数百名規模の機動隊が配置され、同党本部へのアクセスは一時的に禁止された。治安当局筋によると、UDPS 党本部の監視にあっていた警察に対し、同党の支持者が攻撃を行った。カブンド UDPS 幹事長はこれに対し、故チセケディ党首の墓地の建設を邪魔するための、政権側による卑劣な「やらせ(montage)」と反論した(9日付 Jeune Afrique)。

(5) チバラ内閣の発表

・9日、午後1時30分の国営テレビ・ラジオ局(RTNC)ニュースは、カビラ大統領がチバラ内閣の閣僚名簿に関する大統領令を出したと報道した。ニュースで読み上げられた閣僚名簿では、3名の副首相(シェ・オキトゥンドウ外務・地域統合相、ラマザニ・シャダリ内務・治安相、マキラ運輸・交通相)の留任が確認された。

・4月27日に署名された12月31日政治合意に係る個別調整(Arrangement Particulier)文書では、首相を含む大臣ポストを54と規定しているが、今回の組閣では、59ポストが配分された。これは、バディバンガ内閣の68ポスト(首相を含む)からは9ポストが削減されたが、第3次マタタ内閣の48ポスト(首相を含む)より11ポスト多い。

・16日、通常国会において、チバラ内閣の信任式が執り行われ、同首相が施政方針演説をおこなった。

(6) 大統領が合意フォローアップ国家評議会(CNSA)メンバーリストの提出を指示

・13日、大統領府はコミュニケで、大統領の指示により12日、昨年12月31日政治合意の関係者に対し、48時間以内に、各構成団体からの合意フォローアップ国家評議会(CNSA)代表者メンバーリストを提出するよう連絡したと発表した。

(7) キンシャサ市マカラ中央刑務所の襲撃と脱走騒ぎ

・17日4時頃、キンシャサ市セレンバオ・コミュニンにあるマカラ中央刑務所が襲撃された。メンデ政府報道官によると、襲撃を行ったのは Bundu Dia Kongo(BDK。中央コンゴ州を本拠地とする分離主義的宗教集団)で、同集団の精神的指導者(グル)であるムアンダ・ンセミと約50名の服役者を脱獄させた。コンゴ(民)国家警察(PNC)は夜になり、ンセミに加え、幾人かの危険な服役者らが脱走したと伝えた。一部報道によると、4500名以上の服役者が脱走した模様。

(8) 中央コンゴ州カサングル刑務所の脱走騒ぎ

・19日午前1時頃、中央コンゴ州カサングル(キンシャサの南西40キロ)にあるカサングル刑務所に収監されていた74名のうち68名が脱走したと、同地区選出のヴエンバ国民議会議員が AFP

に伝えた。

(9)カゼンベ・オー・カタンガ州知事の復権

・26日、憲法裁判所は、4月18日にオー・カタンガ州議会が行ったカゼンベ知事の不信任決議に不備があったとして、復権の決定を行った(26日付 AFP)。

(10)UN・AU・CIRGL の代表団がカビラ大統領と面談

・30日、カビラ大統領は、UN・AU・CIRGL の代表団と会い、昨年12月31日の政治合意、選挙、カサイ地域の治安情勢等について協議を行った。代表団を率いたシコティ・アンゴラ外相は、カサイ情勢によるコンゴ(民)難民に関する合同委員会の設置を約束した。また、アバリーAU 特別代表は、EU による制裁措置にショックを受けたと語り、コンゴ(民)を支持するため、AU が会合を開催することを約束した。

(11)野党の動向

ア UDPS が故エチエンヌ・チセケディ UDPS 党首の遺体の帰国を延期

・9日、UDPS はカブンド幹事長名のコミュニケで、12日に予定されていた故エチエンヌ・チセケディ UDPS 党首の遺体の帰国を延期すると発表した。8日には、キンブタ・キンシャサ州知事がカブンド UDPS 幹事長に宛てた書簡で、チセケディ党首の遺体をリメテの UDPS 党本部に埋葬する件に関し、墓地以外への埋葬はできないこと、墓地から50メートル以内への住居の建設はできないことを理由に、同党本部敷地内への埋葬は拒否していた。

イ カミタツ ARC 党首がカトゥンビ前カタンガ州知事の報道官に就任

・31日、モイズ・カトゥンビ事務所はコミュニケで、カミタツ ARC 党首(G7 メンバー)が、大統領選挙候補者であるカトゥンビ氏の正式な報道官に就任したと発表した。

(12)独立国家選挙委員会(CENI)の動向

ア カサイ2州における選挙人登録作業の無期限延期

・1日、ナンガー独立国家選挙委員会(CENI)委員長は AFP の問い合わせに対し、カムウィナ・ンサブを名乗る民兵による治安問題が継続している中央カサイ州とカサイ州における選挙人登録作業を、無期限に延期したと伝えた。中央カサイ州とカサイ州における選挙人登録作業は4月30日から予定されていたが、4月3日には、中央カサイ州デケセにある CENI 支部の Philippe Iyidimbe 支部長が、カムウィナ・ンサブの民兵を名乗る者によって斬首されたこと等を受け、CENI は今回の決定を行った。

イ キンシャサ特別州における選挙人登録作業の開始

・28日、CENI は、キンシャサ特別州における選挙人登録カード更新作業を開始した。同日から開始するのは、キンシャサ市の4つのコミューン(バルンブ、ゴンベ、キンシャサ、リングワラ)で、24の登録センターが設置された。また、同日早朝には、カビラ大統領が選挙人登録カードを更新した。

2. 外交

(1)シェ・オキトウドゥ副首相兼外務・地域統合大臣の外国訪問

・4日、ブルンジを訪問し、ンクルンジザ大統領に対し、コンゴ(民)の政治プロセスについて説明を行った。

・5日、ルワンダを訪問し、カガメ大統領及びムシキワボ外相に、コンゴ(民)の政治状況について説明、また、7日にキガリで開催されるアフリカ連合外相会議について協議した。

・15日、南スーダンを訪問し、キール大統領と、コンゴ(民)領内に逃れている南スーダンの元兵士

や難民に関し協議した。

- ・19日、アンゴラを訪問し、ドミンゴス・ヴィセンテ副大統領に、コンゴ(民)の政治状況について説明、また、2国間協力及び、アンゴラに入国したコンゴ人難民に関し協議した。
- ・23日、コンゴ(共)を訪問し、サス・ンゲソ大統領にメッセージ(非公表)を渡した。
- ・25日、中央アフリカを訪問し、トゥアデラ大統領及びドゥバン外相に対し、コンゴ(民)の政治状況について説明、また、コンゴ(民)-中央アフリカ-南スーダンの三者協議を提案した。
- ・29日、南アを訪問し、ズマ大統領と、コンゴ(民)の選挙プロセスについて協議した。

3. 東部及び大湖地域情勢

(1) 南キブ州で仏人らが誘拐

- ・5日午後、南キブ州ワルング地区(ブカブから約60キロ)の Mwenga から移動していた車両4台のコンボイが武装集団に襲われ、30名以上が一時的に拉致された。拉致された人々の一部は釈放されたものの、仏人を含む数名が行方不明のままとなっている(6日付 RFI)。
- ・8日、南キブ州のポフォンド・ワルング地区長は AFP に対し、5日からライア・ムトンボキ(RM)に誘拐されていた仏人が同日夜に解放されたと伝えた。身代金交渉が行われたものの、支払いは行われなかった。ポフォンド地区長はまた、同時に拉致されていた FARDC 将校(capitaine)と約30名の民間人も同時に解放されたが、ICCN(コンゴ(民)自然保護団体)地域事務所の副事務所長は、5日に待ち伏せを受けた際に死亡したと述べた。当地仏大関係者によると、解放された仏人は、米系環境団体の職員。

4. その他地域情勢

(1) コンゴ(民)国軍(FARDC)発表によるカサイ地域の死者数等

- ・カソング・コンゴ(民)国軍(FARDC)報道官は、カサイ地域における今年3月末以降の死者数等を発表。これによると、治安当局は390名のカムウィナ・ンサプの民兵を殺害、503名(うち未成年者が54名)を逮捕した。また、治安当局側の死者は124名で、うち FARDC が39名、コンゴ(民)国家警察(PNC)が85名。9名が行方不明となり、26名が負傷した(15日付 AFP)。

(2) カサイ情勢におけるカンク前開発協力大臣の関与の可能性

- ・20日、ニューヨーク・タイムズ(NYT)電子版は、先般カサイ州で殺害された2名の国連専門家が残っていた記録から、クレマン・カンク前開発協力大臣(バディバンガ内閣)が、カサイ地域の暴力に関与している疑いがある旨報じた。これは、カサイ州で殺害された国連専門家の Zaida Catalan 氏のパソコンに、カンク元開発協力大臣がカサイ州での暴力行為を教唆したとする電話記録が残っていることから判明した。同電話記録では、「カ」元大臣は部下と思われる人物と、カサイ州チンブル(Thimbulu)の放火や、軍ないし警察関係者(Colonel)の殺害について話している。

(3) カビラ大統領が中央カサイ州カナンガ市を訪問

- ・30日、カビラ大統領は、昨年9月に中央カサイ州での暴力的状況が始まって以来初めて同州を訪れ、同日、先にカナンガ市入りしていたラマザニ・シャダリ副首相兼内務・治安大臣及びアタマ国防大臣らとともに、州の防衛・治安当局者らと会合を行った。今回の同大統領のカナンガ市訪問は、厳しい状況にある家族らを励まし、様々な階層の住民と会見を行い、自身の耳で住民の生の声を聞くのが目的。具体的な滞在期間は発表されていない。
- ・30日、カビラ大統領のカナンガ空港到着時には、約100名(一部報道では400名)の動員解除された民兵が空港に集められた。ヴミア中央カサイ州警察長官は、これら民兵は研修の後、コンゴ(民)国家警察に統合されると発表している。

5. その他

(1) LUCHA がシディク MONUSCO 国連事務総長特別代表(SRSG)の辞任を求め座り込み抗議

・31日午前、LUCHA(Lutte pour le changement、若者による民主化推進グループ)のメンバー約100人が、コンゴ(民)中部グラン・カサイ(カサイ州、中央カサイ州、東カサイ州)における大量虐殺に関する国際的な独立調査と、シディク MONUSCO 国連事務総長特別代表(SRSG)の辞任を求め、北キブ州ゴマ市の MONUSCO 本部前で座り込み抗議行動を行い、抗議文書を MONUSCO に提出、また、同文書をメディアの前で読み上げた。LUCHA によると、MONUSCO は「市民の保護」というマンデートの実施において無能であり、シディク SRSG は、不適格であり、特に、カビラ政権側へ加担していることにおいて無能力であるとし、さらに有能な人物との早急の交替を求めている